

なな山だより

なな山緑地の会会報 第23号 2011・10

多摩市から西側法面の維持管理を委託されることになりました

なな山緑地の西側の百草団地バス停のある歩道に接している法面(のり面=斜面地)約2,000㎡の維持管理を、多摩市から当会に委託されることになりました。

この法面は、UR(都市再生機構)から多摩市に移管されたもので、以前はURによって年2~3回雑草の刈払いが行われていましたが、クズやカヤなど雑草が伸びた状態が続き、また道路からのゴミや空き缶の投棄が絶えませんでした。非公式ではありましたが、当会会員が雑草の刈払いやゴミの収集などの手入れをしていました。この法面には、キンラン、エビネ、タマノカンアオイなど希少植物がありましたので、周囲の雑草を除去し囲いをつけて保護もしていました。



バス停の付近から、なな山緑地を見ると山全体が見渡せ、新緑や紅葉など季節の移り変わりと共にその姿を変える里山の景観を楽しむことができます。しかし、その手前の法面が雑草やゴミで汚れては興ざめです。



今年3月頃、当会からこの法面を管轄する多摩市に、法面の維持管理を担当したい旨申し込んでおりました。先月、市の道路課から現地を見に来られて、当会にこの法面の手入れや清掃を委託したいとの申し出がありました。正式には2012年4月からの協定になりますが、従来通り適宜、草刈りやゴミ拾いを実施することになっています。近隣住民が気持ちよく通行しながら、なな山緑地の景観を楽しんでいただけるよう、これからも努力して参ります。

《写真》上=歩道の雑草の除去、下=法面の刈払い



ジョウビタキの雌



看板の上のカマキリ



カブトムシ



会長宅に来たタヌキ



アカボシゴマダラ

なな山のどうぶつたち
なな山で見つけた動物・鳥・昆虫の写真を集めてみました。偶然に撮れたものだけで数も多くはありません。時間をかけて充実していければと思っています。



ムラサキシジミチョウ



ニイニイゼミの抜けがら



アカトンボ



タマムシ



カブトムシの幼虫

なな山緑地にて思うー自然と災害ー

相田幸一

今日この頃、日本各地は自然災害に見舞われ続けています。

福島原発事故は地震・津波という自然の災害に加え、エネルギーシステムの欠陥を露呈したもので、人災的な側面が増幅された形で現れたようです。新たに文明の災害とも呼ぶべきものとなってしまいました。これは人々の暮らしを根本から見直さなければならない大きな問題でありましょう。しかし、文明の災害についてはあまりにも過大であるのでここでは触れないでおこうと思います。

地震・津波・台風・大雨・大雪・山火事などは時に人間にとっては、命・暮らしに関わる大きな災害となってしまいます。しかし、地球誕生からこの方、繰り返し繰り返し起こっていることで、これらは自然界にとっては一つの現象に過ぎないのでしょうか。地球上の生きるもの全てが、その世界で生命を引き継ぎ、進化を遂げているわけで、自然にとっては災害ではないのでしょうか。人類が誕生し、文明を発展させたからこそ自然災害禍ということになってしまったのです。人類も自然界の一構成員であることを思い起こし、それをベースに考えていかなければ問題の解決に繋がらないのかもしれないのです。

東日本大津波での出来事です。岩手県の田野畑村の旅館「本家」は地元聞き書きの伝承により高台に立地させ、平成の大合併にも惑わされなかった。そして被害を最小限に済ますことが出来ました。一方、宮古市に合併した田老地区は巨大な防波堤という近代技術の過信が町を破壊に導いてしまったのです。語り継がれた伝承の力をそこに見る思いです。

また、気仙沼周辺の漁民たちの中には、この大津波を自然界の為せる海の大掃除と捉えて、やがてはよりよい漁場となると信じ、今後も海と共に生きる決断をしたとのことでした。

今、私たちは地球という自然の生命共同体の一員であることをもう一度認識しなおして、暮らしのスタイルを構えなおしていかなければならないように思います。

なな山に行くしかない

エコメッセ・府中 重田益美

環境まちづくりNPOエコメッセは、地域のみなさんから不用となった衣類や雑貨を私たちの運営するリユースショップ「水・緑・木地」に寄付していただき、その売上の一部を地域の身近な環境活動に活かしている団体です。9年前に練馬からスタートし、現在では11自治体に13店舗があります。エコメッセの環境活動の特徴は、地域ごとに活動テーマが違うことです。地域の幼稚園などに太陽光パネルを設置しているところや、緑化保全をしているところ、この多摩市の聖蹟桜ヶ丘にもエコメッセのお店があり、連光寺のホタル保全をしています。府中は2年前のスタートですが、環境テーマを何にするか、みんなで喧々諤々でした。その中で「府中にまだ残っている畑を次の世代にまで残していきたいね。私たちにできる農業支援をやっぺいこう！」ということになりました。



そんなとき、住崎さんに「多摩のなな山と府中の畑の関係」のお話を伺いました。これはもう、なな山に行くしかありません。昨年5月、初めて行ったなな山緑地は府中から車で約15分、以外にも団地のすぐそばにある不思議な空間でした。そこで住崎さんから里山は人が手をかけることで維持できることや、落ち葉が堆肥として府中の住崎さんの畑にすきこまれ、有機農業を可能にしている話を伺いました。府中の畑を豊かにしていたのが多摩の里山だったこと、今では住崎さんぐらいしかその作業をしていないことを知りました。2回目が12月の落ち葉掃きの時期です。

会のみなさんに教えていただきながら、落ち葉を集め堆肥づくりの場所まで運ぶ、いつ終わるのかわからないような作業の繰り返しを、昔の農家の人たちは黙々とやり続け、府中の豊かな農地を作りあげてきたのです。でもこのことを府中の人にはほとんど知りません。エコメッセ・府中は今年からなな山緑地の会の団体になりました。なかなか作業に参加できずにいますが、多摩と府中の環境と人の循環を作りたいと思っています。

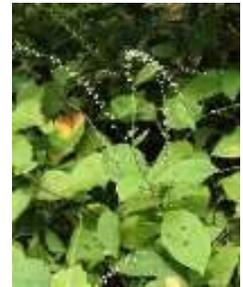
《写真》なな山で活動されたエコメッセ・府中の青野さん、重田さん

ミズヒキ (タデ科) *Polygonum filiforme* Thunb.

8月の末になると、なな山の杉林にミズヒキが咲く。目立たない花だが、赤と白の二色のミズヒキと、白一色のギンミズヒキがある。日陰を好む植物で、林の下生えに見られ、時季によっては葉に「八」の字の模様が入ることがある。4弁の花が咲き、上から見ると赤、下から見ると白というわけだ。名前はこの紅白に見える花序が「水引」に似ていることに由来する。ミズヒキは秋の茶花としても好まれている。



さて、水引とは一体何なのか。語源辞典によるとこよりが元の紙に戻らないよう糊水を引いて乾かし固めたことからとする説と、こよりを着色水にひたして引きながら染めたとする説がある。水引の紀元は、小野妹子が随から帰った際、同行した答礼使が持参した貢ぎ物に結ばれた紅白の麻ひもにあり、そこから宮廷への献上品には紅白の麻ひもで結ぶ習慣生まれ、室町時代には麻ひもの代わりに、こよりに糊水をひいた水引になったといわれるとある。現在はこの赤と白の水引がそのままの状態で使用されることも多いが、慶事における進物や贈答品に添える飾りとして、熨斗(のし)と一緒に使われることが多い。熨斗は水引とは異なり、日本で古来より使われてきた贈答の形だ。



本来、熨斗とは熨斗鮑(のしあわび)のことで、アワビの肉を薄く削ぎ、干して琥珀色の生乾きになったところで、竹筒で押して伸ばし、更に水洗いと乾燥を交互に何度も繰り返すことによって調製したものを指した。「のし」は延寿に通じ、アワビは長寿をもたらす貴重な食べ物とされていたため、古来より縁起物とされ、神饌として用いられてきた。

伊勢神宮では、現在でも6月と12月の月次祭(つきなみさい)、10月の神嘗祭(かんなめさい)で、熨斗鮑が奉納されている。やがて時代が下ると、贈答の形は簡略化され、アワビの代わりに黄色い紙が用いられ、アワビを包んだ紙とともに形だけが、贈答品を意味する熨斗となった。「熨斗」「水引」は貴重なものを差し上げる、あるいは、気持ちを届ける意味が強く感じられ、「ミズヒキ」の名前からは、いにしえの人の豊かなイマジネーションが感じられる。熨斗も水引も、現在一般的には紙の表面に形だけが印刷されているにすぎず、味気ないものとなってしまった。



《写真》左上、左下= ミズヒキ、右上=ギンミズヒキ、右下=熨斗と水引のついた祝儀袋。熨斗の中央の黄色い紙がアワビを模したもの。

《4ページよりつづく》

2011・9・11(日)晴れ 気温20℃

カボチャ収穫(豊作)、山に枝がたくさん落ちていた、強風の影響か。参加者15人。
「作業」バス停付近の雑草除去と清掃、カボチャ収穫と耕し、西の山の落ち枝片づけ、東の山へ材木搬入。
「観察」見つけた植物=ヤマホトギス、ギンミズヒキ、ゴンズイ、ヤマウド。

2011・9・25(日)晴れ 気温21℃

台風15号が9月21日に来襲、その影響で倒木、枝折れ(写真右)、落ち枝等多数。参加者13人
「作業」道路沿いの草取りと清掃、ダイコンの間引き・施肥・虫とり、倒木・折損枝の片づけ、落ち枝の片づけ、シガラ作り、
「観察」見つけた動植物=ショウキラン、キバナアキギリ、フユノハナワラビ、オトコエシ、アカトンボ。



2011・5・22(日)晴れのち雨 気温27℃

草木の伸びる季節、刈払いや掃除などに頑張り、雨の降る前に活動終了。参加者12人。

「作業」広場、法面、道路沿いの草刈り、道路にはみ出した木の剪定。

「観察」見つけた植物＝エゴノキ、サイハイラン、ムラサキカタバミ。



2011・6・12(日)晴れ 気温23℃

ひたすら草刈り・草取り、タマネギの一部収穫。参加者12人。

「作業」カボチャのアンどんを外し法面のカヤを敷く、法面のカヤ集め、草刈り、道路沿いの清掃と雑草取り、中の山の剪定枝整理、シガラ作り。

2011・6・26(日)曇り 気温22℃

ジャガイモ大豊作、昼に試食する、タマネギは小さい、ホダ木の本伏せをする。参加者14人。

「作業」ジャガイモ(キタアカリ・男爵)収穫(写真右上)豊作!タマネギ収穫、法面・広場草刈り。ホダ木立てを作り、仮伏せしてあったシイタケのホダ木を立てる。ナメコは半分地面に埋める。「観察」見つけた植物＝ヤブレガサの花、イチヤクソウ、ヒメヒオウギズイセン。



2011・7・10(日)晴れ 気温33℃

梅雨が明けて猛暑となる、紫蘇ジュースで水分補給。参加者11人。

「作業」道路沿い草刈り清掃、カボチャのカヤ敷き、サトイモ水やり、耕運作業、法面・西の山草刈り。「観察」見つけた植物＝アキノタムラソウ、オオバギボウシ、オオバノトンボソウ、リョウブ、オカトラノオ。○会員の井崎さんからチェーンソーの寄贈をいただいた。感謝!(写真右中)

2011・7・24(日)曇り/晴れ 気温31℃



参加者多数、お昼にスイカを食べる。参加者21人。

「作業」植物観察、ネギ苗植え付け、広場の草刈り、山の道の草刈り、なな山の看板修理。

「観察」見つけた植物＝ヨウシュヤマゴボウ、ヤマユリ(写真左)、トウネズミモチ。

○午前は曇り空で、比較的活動しやすい日だったが、だんだん暑くなる、赤紫蘇ジュースやスイカの差し入れは活動の励みになる。

2011・8・14(日)晴れ 気温32℃

少しでも動くときすぐ汗をかく蒸し暑い一日。参加者17人。

「作業」畑を耕し肥料を撒く(ダイコンの種まきの準備)、中の山道づくり、法面でクズの蔓を除去、下草刈り。「観察」見つけた植物＝トキリマメ、マンリョウ、クサギ、シオデ、ヤブラン。

2011・8・28(日)晴れ 気温26℃

比較的涼しいが、道路脇の清掃はやはり暑い。参加者15人。

「作業」ダイコンの種まき・寒冷紗掛け(写真右下)、道路沿いの清掃、法面の草刈り、中の山で境界の再確認。

「観察」見つけた動植物＝タマムシ、カブトムシ、ネジバナ、シラヤマギク、キツネノマゴ、チジミザサ。

《3ページにつづく》



なな山だより 第23号
発行
発行責任者
住所
ホームページ
編集委員

2011年10月9日発行
なな山緑地の会
高木直樹
多摩市和田 1394-13
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

台風15号の爪痕は意外に大きく、倒れたり、傾いたりした木は数多く、整理するだけで、かなり時間と手間がかかりそうです。法面の管理も加わり忙しい秋になる予感! みんなで力を合わせて取り組んでいきたいと思います。 K